

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成22年2月9日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0272600420
法人名	倉石ハーネス株式会社
事業所名	グループホームさい荘
所在地	青森県下北郡佐井村大字佐井字原田川目19-19 (電話)0175-32-2557
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年10月21日

【情報提供票より】(平成21年9月20日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算 16人	

#### (2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

#### (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	58 歳	最高	97 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険大間病院
---------	------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員全体で話し合い「心の安らぎを目標にその人らしい生活が送れるよう地域の方々のつながりを大切に居心地の良さを提供します」という事業所独自の理念を作り上げている。また、全職員への理念の周知・共有化を図れるように取り組んでおり、理念を理解した上で、利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの思いを大切に愛情豊かなケアの提供を実践している。

地域密着型サービスを推進するため、日常的な外出時やホーム行事、村行事への参加の際に地域住民への声掛けを行い、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、インフルエンザ感染を予防する観点から、外部からの受け入れを控えるようにしているが、平時には小中学校の職場体験やボランティアを受け入れる体制が整っている。

今年4月に「さい荘利用者家族会」が結成され、家族からの意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。

日々の会話や家族からの生活歴等の情報収集により本人の希望や役割を把握している。また、利用者の生活歴等を背景とした得意分野等で力を発揮できるよう、無理のない役割を促し、日々有意義に過ごせるよう支援している。

### 【特に改善が求められる点】

利用者の安全等に配慮し、内的・外的要因から、やむを得ず施設する場合に備え、家族に説明し同意を得る体制を整えてはどうか。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受け、改善課題に挙げられた項目については、職員会議等で話し合い、全職員で改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は評価の意義や活用方法を理解し、自己評価については全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の民生委員や家族代表、行政担当課などが構成員となる運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、行事やホーム運営について、地域の協力が得られるよう、積極的・具体的な意見交換を行っている。また、自己評価や外部評価結果の報告も行い、委員の意見を参考に、改善や対応について話し合い、サービスの向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	月1回発行のホーム便り、利用者の暮らしぶりを報告しているほか、出納帳のコピーと領収書等を添付し、金銭管理について報告している。 面会時には家族に個別に声掛けしたり、運営推進会議に家族代表者が参画するなど、具体的な意見や要望が出されるよう働きかけている。また、家族会を設立し、総会後に懇談会を開催するなど、積極的に家族の意見を聞く体制をとっている。また、内外相談・苦情受付窓口を重要事項説明書に明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホーム便りを学校や町内会、民生委員、老人クラブなどの各種団体に2ヶ月毎に配布し、ホームの理解が得られるよう取り組んでいる。日常的な外出時やホーム行事、村行事への参加の際に地域住民への声掛けを行い、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、小中学校の職場体験やボランティアを受け入れる体制を整えている。

## 【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	職員全体で話し合い「心の安らぎを目標にその人らしい生活が送れるよう地域の方々のつながりを大切にし居心地の良さを提供します」という事業所独自の理念を作り上げている。 職員会議で確認するほか、玄関、職員休憩室などに掲示し、理念の作成段階から全職員での協議を行っているため、職員は理念の意味をよく理解している。サービスの提供場面に反映させている。 管理者及び職員は外部及び内部研修会を通じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深め、利用者の状態等に応じて、情報提供を行うなど、事業利用に繋げる体制が整っている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	事前訪問や聞き取りなどにより、利用者及び家族の希望や要望を十分に確認し、馴染みの関係を形成してから利用が出来るよう、段階的な支援を行っている。 日々利用者の視点に立ち、一緒に見る聞く行動するなどして共感し、利用者を理解するよう努めている。利用者を一方的に支援を受ける側に置かず、個々の力量や思いを把握した上で、出来ることを促すなど、利用者・職員が共に生活する姿勢で日々のケアを行っている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者一人ひとりの思いを大切に、個々の力量や意向を日々の暮らしの状況や会話等から把握している。また、利用者の思いを把握できない場合は、家族や関係者から、これまでの生活歴などの情報収集を行うなどして、把握するよう努めている。 利用者の日々の暮らしの中で、希望や意向を聞き取るほか、家族からは面会時などに意向や意見を聞き、介護計画を作成している。定期的なカンファレンスやケア会議を行い、担当者のみではなく、全職員の意見や気付きを参考に作成している。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	職員は日々理念を念頭に置き、利用者一人ひとりの思いを大切にしており、利用者の話に耳を傾けながら対応している。また、節度を保った声がけに努めており、年長者を敬う姿勢を心掛けているほか、羞恥心等に十分配慮している。職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の個人台帳などの個人情報が記載された書類等は適正に管理している。 利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、ホーム内の畑作業、庭いじりや草取り、散歩など、本人の希望に沿って自由に、日常的に外出できる環境を整えている。現在は、インフルエンザ予防に努め、十分な対策のもと、外出支援を行っている。

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で話し合い「心の安らぎを目標にその人らしい生活が送れるよう地域の方々のつながりを大切にし居心地の良さを提供します」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議で確認するほか、玄関、職員休憩室などに掲示している。理念の作成段階から全職員での協議を行っているため、職員は理念の意味をよく理解し、サービスの提供場面に反映させている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホーム便りを学校や町内会、民生委員、老人クラブなどの各種団体に2ヶ月毎に配布し、ホームの理解が得られるよう取り組んでいる。日常的な外出時やホーム行事、村行事への参加の際に地域住民への声掛けを行い、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、インフルエンザ感染を予防する観点から、外部からの受け入れを控えるようにしているが、平時には小中学校の職場体験やボランティアを受け入れる体制が整っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義や活用方法を理解し、自己評価については全職員で取り組んでいる。外部評価の結果については会議等で話し合い、改善点などについて出来ることから取り組み、サービス向上に繋げている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や家族代表、行政担当課等からなる運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、行事やホーム運営について、地域の協力が得られるよう、積極的・具体的に意見交換が行を行っているほか、自己評価や外部評価結果の報告も行い、委員の意見を参考に改善や対応について話し合い、サービスの向上に努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度発行しているホーム便りを届け、自己評価や外部評価結果についても報告し、周知及び理解を図っている。運営推進会議に行政担当課が参画しており、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は外部及び内部研修会を通じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深めている。現在、制度を必要とする利用者はいないが、利用者の状態等に応じて、情報提供を行うなど、事業利用に繋げる体制を整えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、外部や内部研修を通じて高齢者虐待の内容等を理解しており、日々虐待の無いケアを提供している。虐待を発見した場合の記録の様式等を整備するほか、報告の流れに関する取り決めを職員会議で確認し、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書をもとにホームの方針や取り組みについて説明している。契約を改訂する際は、随時説明し、同意を得ている。また、退居時には、必要に応じて系列事業所と連携を図りながら、他施設の情報提供等を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回発行しているホーム便りで、利用者の暮らしぶりを報告しているほか、出納帳のコピーと領収書等を添付し、金銭管理について報告している。定期的な受診については面会時に、急変時等は随時電話で連絡している。職員の異動等については玄関等に写真入りで紹介している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族に個別に声掛けしたり、運営推進会議に家族代表者が参画するなど、具体的意見や要望が出されるよう働きかけている。また、家族会を設立し、総会後に懇談会を開催するなど、積極的に家族の意見を聞く体制をとっている。また、内外相談・苦情受付窓口を重要事項説明書に明示している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常的に利用者や職員がユニット間を自由に行き来することで、異動の際の利用者への影響を少なくするよう配慮している。引継ぎがスムーズに行えるよう、個人毎の台帳を整備し、日々の記録等も詳細に残している。利用者に対しても十分な説明を行うほか、ホーム便りや玄関に掲示し、周知を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修について年間研修計画書を作成しているほか、外部研修の情報提供を受け、職員の希望や経験等に応じて平均的に派遣している。受講後は報告書を作成し、内部研修での報告会を行うことで、全職員への周知を図っている。法人本部にスーパーバイザーを確保し、業務等について随時助言を得ている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は、外部研修を通じて知り合った同業者への訪問や見学等の交流を図っている。また、近隣の同法人の施設との交流も実施するなど、日常的に気軽に職員が行き来する環境を整え、得られた情報やケアの技術等を職員会議で共有し、サービスの質の向上に役立っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問や聞き取りなどにより、利用者及び家族の希望や要望を十分に確認し、安心して馴染みの関係を形成してから利用開始出来るよう、段階的な利用支援を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々利用者の視点に立ち、一緒に見る聞く行動するなどして共感し、利用者を理解するよう努めている。利用者を一方的に支援を受ける側に置かず、個々の力量や思いを把握した上で、出来ることを援助し、利用者・職員が共に生活する姿勢で日々のケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを大切に、個々の力量や意向を日々の暮らしの状況や会話等から把握している。また、利用者の思いを把握できない場合は、家族や関係者から、これまでの生活歴などの情報収集を行って、把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日々の暮らしの中で、希望や意向を聞き取るほか、家族からは面会時などに意向や意見を聞き、介護計画を作成している。定期的なカンファレンスやケア会議を行い、担当者のみではなく、全職員からの意見や気づきを参考にし作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎に定期的に見直しを行い、状況が急変した場合等は、その都度、見直しを行っている。見直しの際は、利用者や家族等の状態や意向の変化の把握をし、現状に即した新たな介護計画を作成している。また、職員は日々の観察や記録のほか、家族の面会時や利用者との日常の会話の中から意向等を聞き取るよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じ、買い物や日帰り旅行などの支援を行っている。現在のところ新たに実施して欲しいサービスの要請等が利用者や家族からは特に無いが、要請があった場合は柔軟に対応するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医への受診継続を支援しているほか、近隣に協力医療機関を確保し、必要に応じていつでも医師に相談できる体制を整えている。受診状況について、定時的及び随時家族へ報告し、必要に応じて医療機関を交えた話し合いの場を確保している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての指針を作成し、家族、医師、看護師、ケアマネジャー、職員で話し合い意志統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々理念を念頭に、利用者一人ひとりの思いを大切にしており、利用者の話しに耳を傾けながら対応している。また、節度を保った声がけに努めており、年長者を敬う姿勢を心掛けているほか、羞恥心等に十分配慮している。職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の個人台帳などの個人情報が記載された書類等は適正に管理している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の話を聞き、意向や傾向を見守り、把握することを優先している。また、希望や身体状況のほか、天候にも留意しながら、その日その時に合った柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いに応じて品物を変えるなどの配慮を行っている。職員も一緒に食事を摂っているほか、食事の準備や後片付け時には、利用者の個々の力量に応じて、一緒に行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安に声掛けすると共に、時間帯や曜日を設けず、本人の希望に沿った入浴を支援している。また、職員は利用者の入浴に対する羞恥心や負担感、安全面に十分注意して見守りを行い、必要に応じて適切な支援を行っている。入浴を拒否する利用者に対しては、無理強いすることなく、時間をずらして再度声掛けするなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話や家族からの生活歴等の情報収集により本人の希望や役割を把握している。また、利用者の生活歴等を背景とした得意分野等で力を発揮できるよう、無理のない役割を促し、日々有意義に過せるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、ホーム内の畑作業、庭いじりや草取り、散歩など、本人の希望に沿って自由に、日常的に外出できる環境を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者は、研修及び職員会議において身体拘束の内容やその弊害についての教育を徹底し、職員は理解している。危険防止のため、やむを得ない場合には、記録様式や同意書が整備され、家族へ説明し同意を得ている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室等利用者が日常的に出入りする場所を施錠せず、利用者は自由に散歩や畑作業などに外出できる。また、利用者の外出傾向が察知できるよう見守りを行い、外出時には付き添っている。無断外出時に備え、近隣や公共施設に日頃から協力を働きかけ、連絡体制作りにも努めているが、やむを得ず施錠する場合に備え、家族に説明を行い、同意を得る体制を整えるまでには至っていない。	○	利用者の安全等に配慮し、内的・外的要因から、やむを得ず施錠する場合に備え、家族に説明し同意を得る体制を整えてはどうか。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応表及び緊急時連絡表を作成し、昼及び夜間を想定した避難訓練を年2回、消防署の協力のもと実施している。また、非常食および飲料水を入れた非常持ち出し袋も準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好き嫌いを把握した上で、栄養バランスに配慮した献立を作成しているほか、利用者全員の食事や水分の摂取量を記録している。利用者の栄養摂取状況等について栄養士から指導や助言を得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防等に関するマニュアルを作成し、本部から情報提供された最新の情報に応じて見直しを行っている。また、手洗い、うがいなどの基本的な感染予防策の励行や、予防接種を行うほか、感染症流行時期には利用者や家族にもホーム便り等を利用して周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の家具を配し、一部には畳を敷くなど、なるべく家庭的な雰囲気を保てるよう配慮している。また、職員が立てる物音やテレビの音量は適切で、ホーム内は季節を感じられるように、利用者と職員が作成した作品を飾り付け、利用者にとって居心地の良い空間となるよう工夫している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はもちろん、入居後も本人の好みの家具などを積極的に持ち込んで貰っている。持ち込みが少ない場合にも、個々の利用者にとって住みよい空間となるよう、職員が利用者の意向を把握して、利用者と共にその人らしい居室づくりに努めている。		

※  は、重点項目。